

## 退緑黄化病抵抗性メロン新品種 「アールスアポロン」シリーズ

退緑黄化病は、タバココナジラミによって媒介されるウリ類退緑黄化ウイルス (*Cucurbit chlorotic yellows virus*, CCYV) によるウイルス病で、関東以西のメロン産地に深刻な被害を及ぼしています。メロンが CCYV に感染すると、葉に緑色が薄くなった（退緑）小斑点を生じた後、葉全体が黄色くなり（黄化）、果実重及び糖度が低下するため商品価値が著しく低下することから、退緑黄化病抵抗性品種の開発が強く求められていました。そこで、農研機構と株式会社萩原農場生産研究所は共同で、世界で初めての退緑黄化病抵抗性メロン新品種「アールスアポロン」シリーズ4品種（夏系、春秋系、早春晩秋性、秋冬系の F<sub>1</sub> 品種）を育成しましたので、その概要を紹介します。本研究の一部は、生研支援センター「オープンイノベーション研究・実用化推進事業」（JPJ011937）の支援を受けて行いました。

### ☆ 技術の概要

1. 4品種とも、果肉が緑色で、果皮にネットがあるアールス系メロンです（図1）。
2. 栽培適期：夏系は6～7月播種・9～10月収穫、春秋系は7～8月播種・10～11月収穫、早春晩秋系は8～9月播種・11～12月収穫、秋冬系は9月播種・12～1月収穫に適した品種です。
3. 退緑黄化病抵抗性：4品種とも、CCYVに感染しても、罹病性品種より症状が軽いです（図2）。



図1 新品種「アールスアポロン」の果実



図2 メロン生産者ほ場（退緑黄化病発生地域）での試作状況

### ☆ 活用面での留意点

1. 栽培上の留意点：退緑黄化病に対して完全な抵抗性ではない上、タバココナジラミ自体には抵抗性がないため、本品種を栽培するには、ハウスに目合い0.4mmの防虫ネットを張る・防除効果の高い農薬を適切な時期に処理することも重要です。
2. 本品種の種子入手先等、詳細については、下記をご参照ください。

[https://www.naro.go.jp/publicity\\_report/press/laboratory/nivfs/163956.html](https://www.naro.go.jp/publicity_report/press/laboratory/nivfs/163956.html)

（農研機構 野菜花き研究部門 野菜花き品種育成研究領域 川頭洋一）